

堺から DX で新規事業創出を ——



「堺 NeXt Drive」成果報告会を開催します －新しい価値を生み出す挑戦が、堺から始動－

堺市では、令和 7 年 9 月 8 日付け報道提供資料でお知らせしたとおり、市内企業によるデジタル技術を活用した新規事業創出やビジネス変革への挑戦を支援するプログラム「堺 NeXt Drive（堺市 DX 新規事業創出業務）」の支援対象企業を 5 社選定し、新規事業創出や新たなビジネスモデルの構築に向けた講座・ワークショップに加え、堺 DX 推進ラボ参画機関等との連携支援や、メンターによる伴走支援を実施しました。

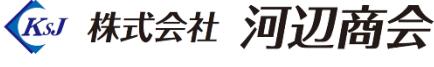
このたび、支援対象企業による成果報告会を以下のとおり開催し、各社の取組のプロセスやアウトプット等の成果発表を通じ、自社の PR やパートナーの探索、DX の実践による新規事業や変革に取り組みたい企業に対する理解促進・意欲向上、ネットワーク構築等を図ります。

1 成果報告会の概要

日 時	令和 8 年 2 月 26 日（木）午後 2 時～午後 4 時 30 分
参加対象	DX 実践・支援に関心のある市内外の中小企業、支援機関、メディア等
場所	大阪公立大学 イノベーションアカデミー スマートエネルギー棟（堺市中区学園町 1-1） ※オンライン配信も実施
定員	50 名（現地参加）
申込方法	令和 8 年 1 月 30 日（金）に受付開始予定（募集人数に達し次第終了） 以下の堺市ホームページからお申し込みください。 https://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/shienyuushi/dx_shien/sakai_next_drive.html
内 容	○「堺 NeXt Drive」（堺市 DX 新規事業創出業務）の紹介 ○支援対象企業による成果報告やトークセッション ○交流会 ※現地参加者のみ
主 催	堺市
運営受託者	有限責任監査法人トーマツ

2 支援対象企業（50音順）

 <p>AKIBO RIDE ON FUTURE</p>	企業名	株式会社アキボウ
	代表者	代表取締役社長 西木 一彦
	企業ホームページ	https://www.akibo.co.jp/

 <p>株式会社 河辺商会</p>	企業名	株式会社河辺商会
	代表者	代表取締役社長 福田 康一
	企業ホームページ	http://www.kawabe-co.com/

 <p>ナカバヤシ</p>	企業名	ナカバヤシ株式会社
	代表者	代表取締役 中林 一良
	企業ホームページ	https://www.nakabayashi.co.jp/

 <p>TARU BAR original cask flavor</p>	企業名	株式会社 4B
	代表者	代表取締役 山本 崇一郎
	企業ホームページ	https://taru-bar.com/

<p>“想いを形に” 技術を形にする会社</p> <p>WTW 和田精工株式会社</p>	企業名	和田精工株式会社
	代表者	代表取締役社長 和田 一宏
	企業ホームページ	https://www.wtw.co.jp

3 堺 NeXt Drive

令和7年度から、市内企業によるデジタル技術（D）を活用した新規事業創出やビジネス変革等のトランスフォーメーション（X）への挑戦を後押しする「堺市 DX 新規事業創出業務」を、「堺 NeXt Drive」と名付け、新たに実施しています。

4 堺 DX 推進ラボ

事務局の堺市を含め市内の産学官金 17 機関が連携し、市内企業のデジタル化・DX 推進を地域ぐるみで支援する体制です。令和5年10月に、経済産業省とIPA（独立行政法人情報処理推進機構）が選定する「地域DX推進ラボ」に認定されました。

詳細は、以下の堺市ホームページをご確認ください。

https://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/shienyuushi/dx_shien/sakaidxsuishinlabo.html

<p>問い合わせ先</p>	担当 課：産業振興局 産業戦略部 地域産業課
	電話：072-228-7534 ファックス：072-228-8816

堺から“DX”で新規事業創出を ——

651.32

堺NeX+Drive

| 令和7年度 | 堺NeXt Drive | 堺市DX新規事業創出業務 |

2026.2.26 *Thu. 14:00→16:30*
支援対象企業による成果報告会開催

＼観覧者募集／

堺NeXt Driveの支援対象企業による成果報告会を開催いたします!!

成果報告会では、実際に生まれた新規事業や企業がどのように変革を進めたのか、そのリアルなストーリーをお届けします。
「自社にも活かせるヒントがあるかもしれない」「次年度は自分たちも挑戦してみたい」「地域の企業の挑戦を応援したい」—
そんなきっかけを見つける場として、ぜひご参加ください。

開催場所

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

大阪公立大学 イノベーションアカデミー
スマートエネルギー棟 ステージエリア



【アクセス】

南海高野線「白鷺駅」から徒歩7分
OsakaMetoro御堂筋線「なかもず駅(5号出口)」から徒歩15分
公共交通機関でお越しください。(駐車場はございません)

実施方法

◆ハイブリッド開催
(現地+オンラインでの開催)

定員: 50名 (現地参加)

参加対象者

- ◆ DXや新規事業に関心のある全国の企業経営者・担当者
- ◆ 次年度の堺NeXtDrive参画を検討している企業
- ◆ 地域企業との協業やパートナーシップを求める企業・団体
- ◆ 支援機関、金融機関、大学など産学官連携に関心のある方
- ◆ メディア関係者、など

イベントお申込みは
二次元コードから
アクセス!
募集締切
2/25(水) 13:00まで



「令和7年度 堺NeXt Drive(堺市DX新規事業創出業務)」の支援内容

- ◆ デジタル技術による新規事業創出方法に関する講座やワークショップの実施
- ◆ 支援対象企業や地域支援機関、地域金融機関など多様な参加者との交流の場の提供
- ◆ DXコンサルタントである”担当メンターによる伴走支援”
- ◆ ”成果報告会”によるプロモーション機会の提供
- ◆ 堺DX推進ラボ参画機関、堺市他支援策との”連携支援”



「堺NeXtDrive」とは

堺市内企業がデジタル技術(D)を活用して新規事業創出やビジネス変革といったトランスフォーメーション(X)に挑戦することを後押しする事業です。参加企業の仲間や市内支援機関等とのDX実践機会を提供します。本事業を通じて、デジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組むモデル企業の創出と、市内企業全体のDX推進に向けた機運醸成を図ります。

2026年2月26日(木) 14:00-16:30
堺NeXt Drive 成果報告会プログラム

- ◆ DX新規事業創出プログラム「堺NeXt Drive」の紹介
- ◆ 支援対象企業による成果報告・トークセッション
- ◆ 次年度事業の告知 ◆ 交流会(※現地参加者のみ)

「令和7年度 堀 NeXt Drive(堺市DX新規事業創出業務)」の支援対象企業

企業名・会社概要

新規事業・デジタル変革の内容

株式会社 アキボウ

スポーツ自転車及びそのアクセサリーの国内販売事業
自転車・オートバイ・自動車のパーツの輸出版売事業



Website

株式会社 河辺商会

プラスチック製品の製造及び加工、販売事業



Website

ナカバヤシ 株式会社

文具事務用品の製造販売事業
印刷・製本事業、BPO 事業 等



Website

株式会社 4B

ウイスキー熟成用木製スティック
「TARUBAR (タルバー)」の企画・販売事業



Website

和田精工 株式会社

エンジニアプラスチック射出成型、
ペアリング製造・販売事業

“想いを形に” 技術を形にする会社
WTW 和田精工株式会社



Website

お問い合わせ先

【運営事務局】 有限責任監査法人 トーマツ 大阪事務所 [Mail] sakai_next-drive@tohmatsu.co.jp 【担当者】 西岡、青木

＜“SHIFTA”によるスポーツバイクDX＞

自転車業界は、商品の検討から購入後のユーザーとの接点が不足しており、体験価値向上や安全性を確保する仕組み等に課題がある。当社が強みとして持つスポーツバイク商材や販売チャネルと、サイクルライフプラットフォーム "SHIFTA" を活用し、ユーザー・販売店・当社との継続的なコミュニティ、相談窓口、情報発信機能を提供するプラットフォームへと進化させ、スポーツバイクをもっと楽しめる環境を実現したい。

＜“CHOPLATE”の体験共有プラットフォーム＞

主婦・共働き・子育て世代やミニマリストの方々は、「家事を減らしたい」「モノを減らしたい」と考える一方、「おしゃれなを使いたい」というニーズがある。まな板としても使えるお皿 CHOPLATE は 22 万枚の売上実績があり、このニーズを含む様々な体験価値を提供している。この体験を顧客同士が共有できるコミュニティを構築し、当社と顧客が継続的に繋がるプラットフォームをめざす。

＜“工数可視化が可能な日報ツール”によるDX＞

製造業をはじめ、管理部門の効率化が進んでおらず、収益力の強化に課題を抱える企業が多い。管理部門の効率化が進まない原因として、プロジェクト毎の工数やコストを可視化(数値化)するための仕組みがないためである。各担当者が抱える業務の詳細な工数を把握することが出来るシステムを構築することで、工数削減に向けた改善策の検討等を促進し、企業の収益力強化の支援をめざす。

＜ウイスキーの追熟体験共有プラットフォーム＞

“Tarubar”によってウイスキーの追熟ができることをもっと知ってもらい、ウイスキーの追熟文化を広めたい。この思いを実現するため、顧客とウイスキー蒸留所が参画するウイスキーの追熟体験共有プラットフォームを立ち上げ、顧客同士の追熟体験レビューの共有や、投稿したレビュー内容に基づくAIによるウイスキー × Tarubar の商品提案、蒸留所とのコミュニケーションの場の提供等を通じてウイスキーの追熟文化の拡大をめざす。

＜“課題解決ファクトリー”で顧客と協力会社とつくるDX＞

製造業は DX による人手不足に対応する自動化、無人化への移行に喫緊の課題がある。自社開発を通じて培った自動化技術と技術人材を活かし、社内工程の自動化促進や、金属混入を検査する機器の開発を進めている。当社が“課題解決ファクトリー”となり、顧客や協力会社への自動化ソリューションの提供を通じて得るフィードバックデータを製品開発に応用することで、顧客のさらなる課題解決をめざす。